

第5回富山市総合計画審議会 概要

場所：富山市役所 8階大会議室

日時：平成 18 年 11 月 28 日（火）

10：00～11：15

1 開会

2 議事

(1) 富山市総合計画前期基本計画（案）に対する審議会・分野別部会での主なご意見と対応（案）について

- ・ご意見と対応（案）一覧 資料 1
- ・ご意見に基づく基本計画（案）の変更（案） 資料 2
- ・市民説明会やパブリックコメントにおけるご意見と市の考え方について 資料 3

(会 長) 資料 1 から資料 3 について一括して説明願います。

(事務局) 資料 1 から資料 3 について説明。

(会 長) ただいまの説明について、意見等をお願いする。

(委 員) 先日、八尾地区の市民説明会に参加したが、その中で、旧市町村の総合計画はどのように反映されているのかという意見が何件もあった。市民は旧の市町村の総合計画が、この新しい総合計画にどのようにいかされているのかに非常に興味がある。資料 3 市民説明会での主なご意見と対応の No17 の対応を、資料 2 前期基本計画（案）の第 1 章基本計画の趣旨に記載してはどうか。

(事務局) 検討します。

(委 員) 分野別部会等で様々な議論の末、計画（案）として取りまとめているので、特に意見はない。

(委 員) 地域審議会でも旧の市町村の総合計画や建設計画がどのようにリンクされているのか、精査してほしいという意見がある。文言に入ればなお良いと思う。旧町村の住民の思いを考慮して施策を進めてもらいたい。

(委 員) 障害者自立支援法が成立することにより、現在施設に入居している高齢者、障害者の方々が、施設を出て、地域で生活することになることから、それらの方々の間に不安が広がっている。この計画の中で、今後 5 年間、それらの方々にどのように支援していくのかを明確に表せないか。また、それ

らの支援をしっかりと行うことで、安全で安心な潤いのある社会になると思う。

(安心部会長) 資料2前期基本計画(案)の74頁以降で障害者の自立支援や高齢者の自立を支える地域づくりについて、具体的な施策を含めて書き込んでいるが、このほかにも特にご意見があればお聞かせいただきたい。

(委員) 活力の分野では、市民に期待する役割に“企業”という主体があることを認識して、企業の役割を検討しておく必要がある。

(委員) 資料2前期基本計画(案)の74頁以降のところ、グループホーム・ケアホームは市街化調整区域では大規模な施設は建てにくいことから、支援する際に障害となっているので何らかの対応が必要と思う。

(2) 富山市総合計画前期基本計画(案)についての答申(案)について

(会長) 資料4(2)富山市総合計画前期基本計画(案)についての答申(案)について、協働部会長より説明願います。

(協働部会長) 資料4について説明。

(会長) ただいまの説明に対し、各部会長より、この答申(案)について各部会の審議の中での意見について補足説明願います。

(安心部会長) 安心部会については、子育て、教育、保健など、日常の市民生活に直接関わる部分について議論してきた。この答申(案)では4点挙げているが、議論の中では、安心した生活を支える基盤は地域であることが強調されていた。地域を構成する住民その他の組織が連携しあって、支えあって、さらには行政と協働してこそ安心ある暮らしができる。そういった思いで議論が貫かれた。

また、今までの生活の中で大事にしてきたもの(普遍的な価値観)をどのように次代に引き継いでいくのか、それに対してどのように取り組んでいくべきかが議論の中で強調されていたのが印象的であった。

(安全部会長) 安全部会では、人的災害、自然災害、地球環境など様々な問題について議論してきた。最終的に答申は4つにまとめたが、委員の意見はおおよそ基本計画に反映した。今後、この方向で施策を進めていけば、安全なまちづくりとなると思う。行政には、施策を進める途中の段階で点検・評価し、実効性のある方法で進めてほしい。

(潤い部会長) 潤い部会では、そもそも潤いとは何かというところから議論が始まった。

委員の中では、多様な生活が尊重できる社会が潤いのある社会であろう、富山市はそういった社会を目指すべきである、という共通の理解が概ねあったと思う。

また、市民と企業などとの協働が重要であること、市民の参加から一歩踏み込んだ参画が大事であることなどが議論された。

この協働やコンパクトなまちづくりなどは、未知の施策であるので、試行錯誤を繰り返しながら、行政と市民が共に目標に向かって歩んで行ければ良いと思う。

(活力部会長) 活力部会は、他の部会と異なる部分がある。それは活力を創出する主体が企業となっている点である。

行政はそれに対しどのように支援していくかが重要であり、部会では、1次、2次、3次産業から、いかに活力を創出するか、またその支援策について具体的に検討してきた。

また、これら産業を充実・強化することにより、観光振興や観光産業の強化につながり、そのことが富山市のイメージを形成する。

部会の中では、その富山市のイメージを具体的にどのように追及していくか、またどのようにアピールしていくかなど、富山のイメージを確立するにはどうすべきかが今後の問題であることが議論された。

(委員) 合併により、市域の70%が森林面積となった。また、昨年熊の被害が広がっている。熊の問題は綺麗事では済まされないと思う。

熊の被害が拡大した理由は、1つには山村に人がいなくなったこと、2つにはドングリの実をつけるナラの木がカシナガという害虫により激滅していることが挙げられる。この問題を解決するために、総合計画で森林政策を重点施策として取り上げるべきである。

(委員) 先日、新潟市、金沢市を見てきたが、都市間競争という観点では、富山市は遅れをとっているように思う。総合計画の実行にあたっては、財政的な問題もあるだろうが、合併特例債を有効に活用し、優先順位を決めて積極的に先行投資を行い、ダイナミックに取り組んでほしい。

(助役) 森林政策については、市として積極的に取り組んでいきたいと考えている。また、熊の問題については、総合計画では駆除の方向性を示させていただいた。

都市間競争については、強く意識しており、財政面に工夫をしながら、日本海側有数の中核都市を目指したい。

(会長) 他にご意見も無いようなので、答申については後日私から市長へ手渡すことで良いか。

(委員) 異議なし。

(会長) これにて審議会を終了する。

3 助役挨拶

助役挨拶

委員の皆様方には、昨年来、本市の総合計画策定に向け、9月に議決された基本構想に引き続き、基本計画も鋭意ご審議をいただいていた。改めてお礼を申し上げます。

さて、去る10月23日に開催した第4回の総合計画審議会において、皆様方のご意見等をもとに作成した前期基本計画(案)を諮問させていただいたが、その後、各部会において、細部まで積極的に審議いただき、各委員の皆様には感謝申し上げます。非常に立派な総合計画が出来上がると思う。

先ほど意見もあったが、新市建設計画を最大限尊重しながら、新しい市の総合計画を進めてまいりたい。

今後、本日のご意見等も踏まえ、答申をいただきたいと考えており、その答申を十分尊重し、本年度中に合併後初めてとなる総合計画を取りまとめたい。

そして、本市は、日本海側有数の中核都市としての発展を目指しているため、委員の皆様方には、今後とも本市の市政について、ご協力を賜るようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

4 閉会

(以上)